

取材のお願い

文化人がコロナ禍の社会や文化を語るインタビュー・寄稿シリーズ 国際交流基金ウェブマガジン「をちこち」にて好評連載中

国際交流基金（JF）は、2020年10月15日より、国際交流基金ウェブマガジン「をちこち」内で、各分野で活躍する9名の文化人のインタビュー・寄稿を掲載するシリーズ「新型コロナウイルス下での越境・交流・創造」特集を開始しました。

医師、NPO代表、アートディレクター、研究者、映画監督、演劇作家、アーティスト等、文化芸術に関わる多種多様な立場からみるコロナの現状、そして危機の中で考えるこれからの社会や教育、文化、芸術について連載しています。

2020年12月まで連載を続け、その後英訳し同ページ内で公開する予定です。ぜひご覧いただけますと幸いです。

記

事業名称 : 国際交流基金ウェブマガジン「をちこち」特集073「新型コロナウイルス下での越境・交流・創造」
主催 : 国際交流基金
URL : <https://www.wochikochi.jp/>

をちこち 特集073

新型コロナウイルス下での
越境・交流・創造

コロナのパンデミック下で、芸術・文化の現場の第一線に立つ人々は、何を考え、どのように未来を切り開こうとしているのか。それぞれの“現在地”を、インタビューと寄稿シリーズでお届けします。



稲葉 俊郎 上田 假奈代 大澤 寛雄 岡田 利規
小川 希 北川 フラム 迫田 久美子 スブツニ子! 行定 勲

■企画概要

特集073は「新型コロナウイルス下での越境・交流・創造」をテーマに、芸術・文化の現場の第一線に立つ人々が新型コロナウイルス（COVID-19、以降コロナという）の広がる社会の中で何を思い、どのように未来を切り開こうとしているのかという“現在地”を、インタビューと寄稿シリーズでお届けします。国際交流基金（JF）が世界各国で行う事業の現場から、国際交流を絶やさないための取り組みについてレポートします。

コロナによる都市封鎖や渡航禁止措置が世界各地で実施される中、国際交流基金も、2020年春から多くの海外事業を中止または延期せざるを得なくなり、設立以来例のない事態を迎えました。今まで当たり前だった人々との接触、大人数での集まり等が自由に行えなくなった一方、デジタル化の進展等、生活や社会システムの見直しも進んでいます。また、社会生活維持のため、業務を休むことができない医療従事者、社会インフラ等のエッセンシャルワーカー（社会で必要不可欠な労働者）の存在や、格差、差別の問題もクローズアップされています。

他者と密に接することが難しくなった今、この体験は私たちにどのような影響をもたらすのでしょうか。私たちの「出会い」方や情報、体験、感情の「共有」の仕方、多様な人々が交わる「越境」の仕方、文化や芸術における「創造」、他者への「想像」の仕方はどのように変わっていくのでしょうか。

この件に関するお問い合わせ :

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）
Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044
E-mail: press@jpf.go.jp

コロナの経験によって、国際文化交流が停滞するのではなく、本来の意味について見つめ直し、さらなる想像力をもって現状を打開していく契機になればと願っています。そして今回の特集がこの経験を記録にとどめ、継承して次世代に生かす一助になれば幸いです。

■インタビュー・寄稿シリーズ

【インタビュー】

- ・医師、「みちのおくの芸術祭 山形ビエンナーレ2020」芸術監督 稲葉 俊郎さん
- ・「Art Center Ongoing」代表 小川 希さん
- ・アートディレクター 北川 フラムさん
- ・映画監督 行定 勲さん
- ・詩人・詩業家、NPO法人こえとことばとこころの部屋（コルーム）代表 上田 假奈代さん
- ・演劇作家／小説家／「チェルフィッチュ」主宰 岡田 利規さん（12月掲載予定）
- ・アーティスト スブツニ子！さん（12月掲載予定）

【寄稿】

- ・日本語教育現場におけるコロナ禍の「おかげ（御蔭）」と「せい（所為）」
広島大学副理事・特任教授 迫田 久美子さん
- ・見えない「壁」と向き合うための、たどたどしい作法
ニッセイ基礎研究所 芸術文化プロジェクト室／文化生態観察 大澤 寅雄さん

■JFの取り組み

- ・「中国ふれあいの場事業」にみるデジタルネイティブ世代の日中オンライン交流（国際交流基金 日中交流センター）
- ・アーティストはコロナ禍にどのように応答したのか ～日印オンライン共同制作舞台の現場から～（国際交流基金 ニューデリー日本文化センター）
- ・「とにかくなにかをはじめよう」アニメーション制作を通じて自由な表現を手に入れる「シシヤマザキ・アニメーション・マスタークラス」の挑戦（国際交流基金 メキシコ日本文化センター）
- ・展覧会をオンラインへいかに「拡張」するか（国際交流基金 シドニー日本文化センター）
- ・オンラインでつながる全国各地の国際交流団体（国際交流基金 コミュニケーションセンター）その他今後追加予定

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp

■「をちこち」とは

日本で唯一の国際文化交流専門誌として国際交流基金が発行してきた『国際交流』（1974～2004年）、『をちこち（遠近）』（2004～2009年12月号をもって休刊）を前身とし、国際文化交流に関する情報を発信する国際交流基金公式ウェブマガジンです。今年で創設10周年を迎えました。

『をちこち』の名称は、日本語・日本文化を海外に知らしめ、さらに諸外国との相互理解を深めたい、また、「国家と国家」だけでなく「人と人」を結ぶ文化の懸け橋としての役割を果たしたいという想いを込め、場所と時を示す指示代名詞で、「あちらこちら・ここかしこ」「未来と現在」を意味する大和言葉に由来しています。

ウェブマガジン「をちこち」は、雑誌『をちこち（遠近）』のスピリットを受け継ぎ、年数回のテーマに沿った特集、インタビューや特別寄稿、さまざまな分野のプロフェッショナルによる連載記事を掲載しています。

また、国内外で活動するスタッフのレポート、文化芸術や日本語教育に関する情報ウェブサイトの記事等、国際交流基金が発信する多様な「読み物」を横断的にリンクする、「読み物のポータルサイト」としての役割も果たしています。

以上

この件に関するお問い合わせ：

国際交流基金 コミュニケーションセンター（広報担当：熊倉、原田）

Tel: 03-5369-6075 / Fax: 03-5369-6044

E-mail: press@jpf.go.jp